

# 天皇・皇后両陛下

## 沖縄県・広島県ご訪問 戦後80年 慰霊の旅へ

令和7年は先の大戦の終結から80年の節目の年にあたる。天皇・皇后両陛下は、国内外で尊い命を落とした戦没者に強く心を寄せつつ、「慰霊の旅」で各地を巡られる。4月の硫黄島ご訪問から始まった旅は、6月の沖縄県、広島県へと続いた。薄れつつある悲劇と苦難の記憶を繋いでいくため、慰霊の祈りは継承されていく。

取材・文／中村昌史（産経新聞社会部）

### 硫黄島ご訪問

両陛下の「慰霊の旅」は、4月7日の硫黄島ご訪問から始まった（『皇室』106号にドキュメントを掲載）。

硫黄島は、今も日本兵の1万1000柱を超える遺骨が収容されないまま眠る。そこで両陛下が拝礼し、花束を手向けられたのは「硫黄島戦没者の碑（天山慰霊碑）」と「硫黄島民平和祈念墓地公園」「鎮魂の丘」の3か所だった。祖国や家族を思い散華した日本兵2万1900人を悼み、国が建立したのが天山慰霊碑だ。硫黄島民平和祈念墓地公園には、軍属として戦没した82人が祀られている。日米あわせすべての犠牲者を祀るのが鎮魂の丘だ。

両陛下の到着を前に雨が強さを増した。活発な火山活動で周囲には噴出する蒸気も見える。両陛下は、天山慰霊碑に続く坂を静かに登られ、碑の前で一礼、白いユリの花などを捧げられた。島の強風で花が飛ばないよう、供花台にはベルトが設置され、皇后陛下は陛下に「こちらへ」とお声がけされた。両陛下は続いて、柄杓に満たした水を碑にゆっくりと注がれた。両陛下は訪問前、硫黄島に関する書籍や資料などに目を通し、関係者の説明も受けながら、考えを深められていたという。両陛下は坂道を下り、振り返ると、天山慰霊碑にふたたび深々とご拝礼。しばし見つめられていた。





6月4日、沖縄戦の証言集に目を通される天皇・皇后両陛下と敬宮殿下(糸満市・沖縄県平和祈念資料館)



4月7日、硫黄島戦没者の碑(天山慰霊碑)に供花される両陛下(東京都)

「大変なご苦労をされましたね」。両陛下は同日夕、遺族や、硫黄島と縁のある関係者らとご懇談、一人ひとりに寄り添い、言葉を交わされた。

硫黄島では戦前、約1000人の島民が農業や漁業に従事していた。戦火を避け多くの島民が疎開し、故郷に帰れないままだ。陛下は元島民関係者らに「どんな島だったと聞いていますか」とお尋ねに。着の身着のままで本土へ移住したと聞き、「本当に辛い思いをされましたね」などと寄り添われた。

日没後の硫黄島は雨も上がった。地下水の多い硫黄島では、昔も今も雨は恵みだ。両陛下は自衛隊関係者や小笠原村関係者の見送りを受け帰京された。